

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●河原 定男（かわはら さだお） さん

昭和9年生まれ 84歳  
川崎市高津区宇奈根在住



#### ◆草屋根の家に生まれる

私はここで生まれました。祖父が分家し、父、私と3代目になります。

5人兄弟の長男です。男、女、男、女、男の5人だったんですが、一番末の妹は、昭和19年7月に確か1歳くらいだったと思います、戦火が激しくなり、病気をして手当できずに亡くなりました。

昔は草屋根の家で、私が結婚する前に部分的に建て替えをし、2階家にしました。昭和29年です。当時、周りは畑が広がっていて2階家はとても目立ったんですよ。

ここは多摩川の河口から20キロ、砂利層で、桃畑が広がっていました。宇奈根は梨よりも桃が多く、春は今の久地の梅林あ

たりまで桃の花がいっぱいに咲きとても綺麗でした。

祖父は竹のかご作りが天職で、当時は梨を出荷する時にかごに詰めて出荷したそうで、そのかごを作っていたんです。それから夏はこのあたりの漁師さんが多摩川の鮎をとって、東京の市場に売ったり、二子玉川の料亭「ヤナギヤ」さんなどに、竹で編んだかごに葉っぱをひいて鮎を並べて出す、そのかごを編むのが夏の仕事でした。私も手伝われましたよ。竹は馬絹あたりから1年分仕入れていました。父もその仕事が主でしたが、農業も一部やっていました。

戦前には、梨の出荷はかごから木箱に代わっていました。トラックに積んで神田に持っていくんですから、木箱の方が積みやすいですよ。梨かご作りが終わってからは農家が使う大ざるなどを編んでいました。私も見様見まねで小さいお蕎麦を盛るようなざるを作った経験はあります。母は農業を主にやっていて私も小さい頃は、桃の木の下草をとる手伝いをしました。

#### ◆桃の出荷所が遊び場

このあたりは、少し年上のお姉さんが多くて小学校入学前は、よく一緒に遊んでもらいました。今は「まちかど公園」になっているところが桃の出荷所でそこでよく遊びました。

宇奈根には旧家と言われている家は14軒ありました。

当時はみな洋服を着ていましたね。履物は藁草履でした。おやつはいもや、お餅を炒ったあられを食べていました。

土間にはかまどがあって、そこで煮炊きをして食事は家族揃って食べていました。

私が結婚した時には、ひとつの家に3世代で暮らしていたんです。プロパンガスがすでに入っていてお米もガスで炊いていたんですよ。

お風呂は、結婚した時もまだ外で、薪を焚いて沸かしていましたね。

#### ◆国民学校、新制中学初代生

小学校には、昭和16年入学、大東亜戦争が始まった年です。6クラスくらいあったと思います。男女一緒でした。その年に誕生した高津国民学校の初代です。学校までは歩いて30分くらいかかりましたね。小学校が終わる頃は戦争が激しくなりました。確か5年生で終戦になり、その翌年に6・3制がしかれて新制中学になって、高津中学校の初代なんです。そういう節目を歩んできたんです。

小学生の時に多摩川の河川敷で「よもぎ刈り」があったんですが、その時に足を大けがしたんです。近くの医者で治療したんですが、薬も十分でなく化膿させてしまい、今でも痕が残っています。よもぎ刈りの目的は未だによくわからないままです。

小学校の時は、相撲をよくやりました。土俵もあったけど、硬いのでだいたいは砂場でやっていました。

中学校の時は野球をやっていて、グローブは最初帯芯で自分で作りました。その後、豚皮のグローブになりました。溝の口にスギザキさんというスポーツのお店がありましたね。バスケットも少しやりました。

#### ◆神風が吹いた

父は背が低かったので戦争には行かず、消防団員を長くやっていて空襲警報が出ると火の見やぐらに行きました。宇奈根は空襲を受けなかったです。久地の駅の近くでは、低空飛行で爆撃機から焼夷弾が落ちたのは見たことがありますよ。焼夷弾は宇奈根ではほとんど河川敷に落ちました。川向こうの宇奈根は、空襲を受け神社も焼けたと聞いています。

「ここは神風が吹いた」って言われていました。うちのおじいさんの兄貴が行者で、白い装束で杖ついて富士山に登るような恰好でジャラジャラ鳴らしながらこのあたりを歩いていたことは私も覚えていますけどね。でもそれで風が吹いたかどうかはねえ(笑)。

戦争中、うちは農家ですが、ここは田んぼがない地区なので、押し麦を混ぜて炊いたごはんをお弁当に持って行きました。食べ物は戦後の方がひどかったですね。東京から買い出しも来ました。でもここは、い

も類しかなかったんです。果物は戦争中に木を切り、ほとんど無くなりましたから。

#### ◆戦後の暮らし

魚は、戦後は配給がありました。くじらやあんこう、ぼうだらでしょうか。今の二子新地あたりまで取りに行った記憶があります。宇奈根には小さなお菓子屋が1軒あっただけです。

このあたりは久地まで行かないとお店は無かったです。今の梅林の停留所あたりに橋本屋さんという何でも売っているお店がありました。

戦後、畑で農業を営んでいてもなかなか生活は厳しく、宅地に手放す人たちが出てきました。でも宇奈根は駅から遠いので、土地を手放す人はいなかったんですね。

#### ◆宇奈根に養鶏産業を興す

戦中から親父が、100羽くらいニワトリを平飼いで始めていました。ニワトリはふすまなどを食べるので、小学校の頃は学校から帰ると、久地駅の近くの田中さんという粉をひく水車小屋に行き、ふすまをわけてもらい、菜っ葉を混ぜてニワトリにあげていました。

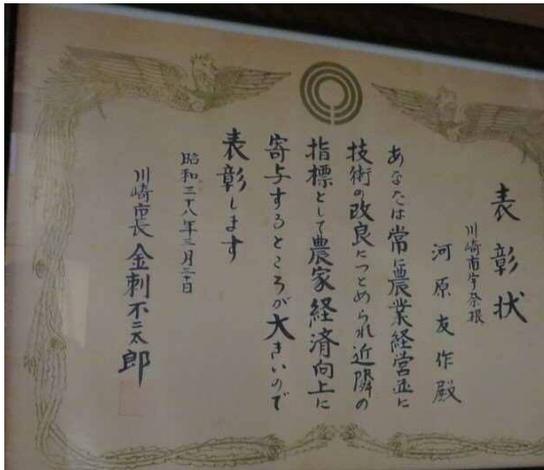
中学校卒業後は、農業を手伝いましたが、土地がたくさんあるわけではないので、自分で「バッテリー」という下に竹ですのこを敷いた2段の鶏舎を建て、その後、養鶏が主になりました。畑で野菜は作っていま

たが、多くは鶏のエサ用でした。エサは、魚のわたなどと小松菜などを混ぜて作っていました。魚のわたは、東京の業者をオートバイでまわって集めてくる人が菅にいて、持ってきてくれました。配合肥料を使う前は、大きな釜で混ぜたこのエサをずっとあげていました。

戦後は、エサも買えるようになって、野菜を作るよりも稼げる、ということで宇奈根の全農家はうちの親父の指導で養鶏を始めました。うちは最大1万羽の鶏を飼っていました。鶏舎は3か所に分散していて、三段鶏舎で、屋根はのこぎり型といって長く続いているんです。南から日が入るように工夫されていました。この形式は前にどんどん鶏舎を増やせるんです。鶏糞は、千葉に売ってました。



ひよこを仕入れて、温めて育てるのも大変でしたが、養鶏を一生懸命やっていたので、親父は特に役職はやっていなかったのですが、市長から新たな産業を根付かせ地域起こしをしたことが認められ、表彰されました。



卵は自転車で多摩川を渡って尾山台、九品仏に出荷に行きました。東急電鉄の創業者の五島慶太さんが散歩する姿を、よく見ましたよ。九品仏では乾物屋さんが卵を買ってくれて、ほら、3人娘のひとり…雪村いずみさんといった芸能人もうちの卵のお客さんだったんですよ。最初、自転車で出荷していた頃は、みかん箱にもみがらを敷いて卵を入れ、何段か積んで持って行きました。

当時は16歳で免許が取れたので、自転車からオート三輪に変えて卵の納品に行きました。三軒茶屋の近くの中里にも売りに行っていました。また、夏野菜も作っていたので卵とは別に尾山台、九品仏に売りに行っていました。近くでは二子の小益屋さんに持って行って行っていました。

#### ◆1万羽から10万羽の時代へ

弟が2人手伝って1万羽の養鶏をやっていたのですが、「これからは10万羽の時代」と、下の弟は農協に勤めることになったん

です。私は神奈川県養鶏連の理事をやっている、連合会では雛のふ化もしたりしていたんですね。でも時代が「もう養鶏に先はない」ということになったんです。

うちは親父が亡くなる昭和62年まで養鶏をやりました。今は宇奈根では養鶏は2軒だけになりましたね。

#### ◆お祭りがさびれる

ここには氷川神社があります。戦後すぐに子ども相手に樽神輿が復活しました。それからお神輿を買ったんですが、昭和37年頃だったでしょうか、お祭りの後に後始末が悪く、火事で倉庫が焼けてしまったんです。ただ太鼓だけは別の場所にしまっていたので残ったんです。お祭りは村が小さいから縁日も出ず、一杯飲んで、子どもはお菓子をもらう、そんなお祭りでした。

昔は川向うの本村と交流していたのです。お祭りが寂れてしまったのは、ここのお祭りは10月10日ですが、東京オリンピック後、お祭りの日が体育の日に設定されたため、それにちなんで多摩川に行って我々が指導して野球などをしちゃったんですね。子ども会もできて、子ども会の会長が先導して、私は当時青少年指導員をしていたかな。

翌日、お宮に子ども会の会長と2人呼び出され「お前たち、何やってんだ。ここに顔出す人がいないじゃないか」って怒られたんです。お祭りに行かなかったから、子

どもたちにお菓子をあげるといったこともなかったんです。

私は怒られながら「お祭りのお金はみんなを出しているのに、子どもたちがお菓子ひとつもらえないのはかわいそうじゃないですか」って言ったんです。その時から今日まで、この日には子どもたちは太鼓や子ども神輿の町内巡行に参加してお菓子を貰い、大変盛り上がっています。



神社では、10数年前からお正月に初詣に来た方に甘酒を出しています。身体が温まると人気です。

(平成30年10月24日取材)

#### ◆宇奈根のお正月

昔は暮れに家でお餅をついてお正月に食べていました。ここのお雑煮は煮込みで、サトイモ、小松菜、油あげをおしょうゆ味、大根は入らないんです。お餅も一緒に入れてとろ火でゆっくり煮込みます。

おせち料理は、八つ頭、にんじん、ごぼう、はすを煮てお皿に盛ります。他にはごまめやきんぴら、紅白のかまぼこ、伊達巻でしょうか。溝の口には「成田屋」というお店があり、材料はそこに買いに行っていました。宇奈根にはお店はなかったですからね。